

# RSTOEMF

## ラスター/EMF (拡張Windowsメタファイル) 変換プログラム



Kernel Computer System  
カーネルコンピュータシステム株式会社

本社：パッケージ販売部

〒221-0056

横浜市神奈川区金港町 6-3 横浜金港町ビル

TEL : 045-442-0500 FAX : 045-442-0501

URL : <http://www.kernelcomputer.co.jp>

### 概要

RASTER データを EMF フォーマット (拡張 Windows メタファイル) へ変換します。

### 特徴

- ・ RASTER データから EMF データに変換します。
- ・ コマンドラインから入出力ファイル名をキーインする事で実行可能です。
- ・ ダイアログから入出力ファイル名を指定する事でも実行可能です。
- ・ 実行時各入出力フォーマットの属性パラメータやオプションパラメータを設定可能です。
- ・ 回転や任意のページのみの変換指定が可能です。

### 動作環境

対応 OS Windows2000/XP

### 価格

製品名	標準価格(税抜き)
R S T O E M F	30万円

## 操作方法

RSTOEMF は、コマンドライン起動とダイアログからの起動が可能なアプリケーションです。通常のコマンドと同じように、コマンドラインから実行したり、バッチファイルやシェルスクリプトに組み込むことが可能です。

ここでは、直接コマンドラインから入力して実行する場合の、基本的な操作手順を示します。(Windows の環境でご使用の場合は、タスクバーの「スタート」メニューから「プログラム/アクセサリ/コマンドプロンプト」で DOS ウィンドウを開いて、その中で実行します。)

まず、変換を始める前に、変換に必要な情報を設定しておく必要があります。RSTOEMF では、そのために属性ファイルと呼ばれるファイルを使います。(属性ファイルの詳細については、「属性データ変換パラメータファイルの利用方法」の章を参照してください。)

変換を実行するには、次のような形式でコマンドラインに入力します。

```
RSTOEMF 変換前のファイル名 -0 変換後のファイル名 オプションコマンド
```

-0 は、マイナス記号とアルファベットの「オー」です。

大文字でも小文字でもかまいませんが、全角文字は使えません。また、-0 と変換後のファイル名の間には空白を入れないようにします。変換前のファイル名と変換後のファイル名に同じものを指定することはできません。

例えば、in\_file.dt を out\_file.dt に変換するには、次のように入力します。(下線部が、入力する部分です。)

```
> RSTOEMF in_file.dt -0out_file.dt
```

正常に変換できた場合は、次のような表示が出て終了し、リターンコード 0 が返されます。

```
RSTOEMF 変換終了
```

エラーの場合は、次のような表示が出て終了し、リターンコードとして 0 以外の値が返されます。

```
RSTOEMF 変換エラー
```

これ以外のエラーメッセージが出ることもあります。詳しくは、「エラー一覧表」の章を参照してください。

RSTOEMF には、変換時に指定できる様々なオプションが用意されています。(-0 も、オプションの一つです。) 次のように入力すると、オプションの一覧が表示されます。

```
> RSTOEMF -Q
```

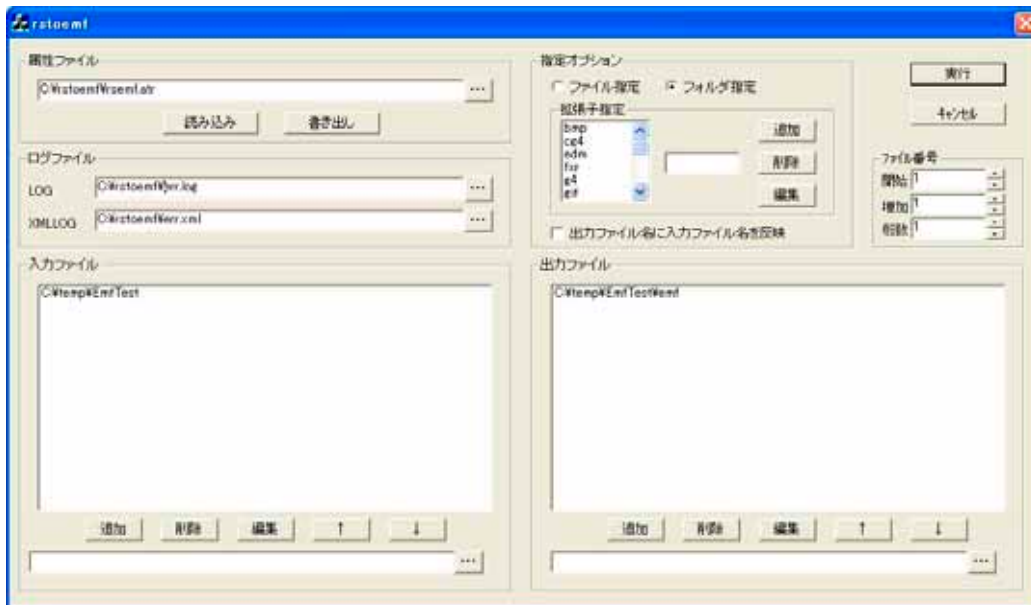
オプションの詳細については、「オプション一覧表」の章を参照してください。

### <注意事項>

変換処理が何らかの原因により途中で異常終了した場合、一時ファイルが削除されずに残ってしまう可能性があります。一時ファイルは、以下の場所に「kd」ではじまるファイル名で作成されます。このようなファイルが残ってしまった場合は、削除しても問題ありません。

```
Windows 版 | 環境変数 TEMP および TMP で設定された場所
```

パラメータ無しでの起動、または、エクスプローラで RSTOEMF.exe のダブルクリックでダイアログからの起動が可能となっています。以下に、各コントロールの説明と使用方法を説明します。



#### 属性ファイル

- ◆属性ファイル名  
変換属性ファイルを指定します。
- ◆読み込み  
「読み込み」ボタンをクリックすると、選択した属性ファイルの内容を読み込み、ダイアログに設定します。
- ◆書き出し  
「書き出し」ボタンをクリックすると、ダイアログに設定している内容を、選択した属性ファイルに書き出します。

#### ログファイル

- ◆LOG  
変換状況やエラーのログファイル名を設定します。  
参照ボタンにてファイルダイアログからファイル選択可能です。  
※未設定の場合は RSTOEMF と同じフォルダに ERR.LOG が作成されます。  
例) RSTOEMF が c:\program files\RSTOEMF の場合ログファイルは c:\program files\RSTOEMF\ERR.LOG となります。

- ◆XMLLOG  
変換状況やエラーの XML 形式のログファイル名を設定します。  
参照ボタンにてファイルダイアログからファイル選択可能です。  
※未設定の場合は RSTOEMF と同じフォルダに ERR.XML が作成されます。  
例) RSTOEMF が c:\program files\RSTOEMF の場合ログファイルは c:\program files\RSTOEMF\ERR.XML となります。

#### 指定オプション

- ◆ファイル指定  
ファイル単位で入出力ファイルを指定し変換を行います。

##### 注意事項

ファイル指定/フォルダ指定を切り替えの際にリストをクリアして良いか?のダイアログを表示し、「はい」をクリックした場合、入出力ファイルリストの中身を削除します。

- ◆フォルダ指定  
フォルダ単位で入出力フォルダを指定し変換を行います。

##### 注意事項

ファイル指定/フォルダ指定を切り替えの際にリストをクリアして良いか?のダイアログを表示し、「はい」をクリックした場合、入出力ファイルリストの中身を削除します。

#### ◆拡張子指定

- ◇リストボックス  
指定された拡張子の一覧です。
- ◇エディットボックス  
拡張子を入力します。
- ◇追加  
エディットボックスに入力した拡張子をリストボックスに追加します。
- ◇削除  
リストボックスで選択した拡張子を削除します。
- ◇編集  
リストボックスで選択した拡張子をエディットボックスに入力した拡張子に置き換えます。

##### 注意事項

最大 100 件までとします。

- ◆出力ファイル名に入力ファイル名を反映  
ON : 出力ファイル名を、入力ファイル名/フォルダ名を反映し決定します。  
OFF: (6) 出力ファイルで任意に出力ファイル名/フォルダ名を指定します。  
ファイル番号

- ◆開始  
分割する最初の出力ファイル名に付加するファイル番号。

- ◆増加  
2つ目以降の出力ファイルに付加するファイル番号の増加値。

◆桁数

ページ分割する際のページ番号の桁数。

例 1) TEST. TIF (3 ページ) を開始 (0) 増加 (1) 桁数 (3) でシングルページに変換。

TEST\_000. EMF (PDF1 ページ目のシングルページ)

TEST\_001. EMF (PDF2 ページ目のシングルページ)

TEST\_002. EMF (PDF3 ページ目のシングルページ)

となります。

例 2) TEST. TIF (3 ページ) を開始 (1) 増加 (2) 桁数 (2) でページ数指定 (2 ページ) のマルチページに変換。

TEST\_01. EMF (PDF1 ページ目と 2 ページ目のマルチページ)

TEST\_03. EMF (PDF3 ページ目のシングルページ)

となります。

例 3) TEST. TIF (3 ページ) を開始 (99) 増加 (3) 桁数 (2) でシングルページに変換。

TEST\_99. EMF (PDF1 ページ目のシングルページ)

TEST\_102. EMF (PDF2 ページ目のシングルページ)

TEST\_105. EMF (PDF3 ページ目のシングルページ)

となります。

入力ファイル

◆リストボックス

指定されたファイル/フォルダの一覧です。

◆追加

エディットボックスに入力したファイル/フォルダをリストボックスに追加します。

◆削除

リストボックスで選択したファイル/フォルダを削除します。

◆編集

リストボックスで選択したファイル/フォルダをエディットボックスに入力したファイル/フォルダに置き換えます。

◆↑

リストボックスで選択したファイル/フォルダを上に移動します。

◆↓

リストボックスで選択したファイル/フォルダを下に移動します。

◆エディットボックス

ファイル/フォルダを入力します。

注意事項

指定オプションで「ファイル指定」を選択しておく、ファイルダイアログで、「フォルダ指定」を選択しておく、フォルダ指定ダイアログで参照可能です。

最大 100 件までとします。

出力ファイル

◆リストボックス

指定されたファイル/フォルダの一覧です。

◆追加

エディットボックスに入力したファイル/フォルダをリストボックスに追加します。

◆削除

リストボックスで選択したファイル/フォルダを削除します。

◆編集

リストボックスで選択したファイル/フォルダをエディットボックスに入力したファイル/フォルダに置き換えます。

◆↑

リストボックスで選択したファイル/フォルダを上に移動します。

◆↓

リストボックスで選択したファイル/フォルダを下に移動します。

◆エディットボックス

ファイル/フォルダを入力します。

注意事項

指定オプションで「ファイル指定」を選択しておく、ファイルダイアログで、「フォルダ指定」を選択しておく、フォルダ指定ダイアログで参照可能です。

最大 100 件までとします。

実行

変換を実行します。

キャンセル

ダイアログを破棄し終了します。

## オプション

- [filename] : 入力ファイル名  
注意事項  
複数指定可、但し出力ファイル/フォルダ数と一致する必要あり。  
最大 100 件までとします。
- O[filename] : EMF 出力ファイル名  
注意事項  
複数指定可、但し入力ファイル/フォルダ数と一致する必要あり。  
最大 100 件までとします。
- U[ATR\_NAME] : 属性ファイル名を指定します。(初期値: エラー! 参照元が見つかりません。 .atr)
- MFILE[A, B, C] : マルチページの分解を指定します。  
A: 桁数  
B: ページ番号開始値  
C: ページ番号増加値  
省略時(属性ファイルの指示が使用されます。)
- LOG[LOG\_FILE] : ログファイル名 (初期値: ERR. LOG)  
変換結果をログファイルへ出力します。
- XMLLOG[xmllog\_file] : ログファイル名 (ERR. XML)  
変換結果を XML 形式でログファイルへ出力(追加)します。  
【ログファイルの内容】

ログファイル	
メッセージ	
ファイル情報	
エラーメッセージ(ERROR: -----)	

(注) 表示するための拡張子が XSL ファイルも同時に作成されます。

- BATCH[batch\_file] : バッチファイルを使って、複数ファイルを一括処理します。

### ＜使用方法＞

処理の内容を記述したバッチファイルを-BATCH オプションで指定して実行します。

```
RSTOEMF -BATCH バッチファイル名
```

### ＜バッチファイルの作成方法＞

- バッチファイルはテキスト形式で、1 行につき 1 件の処理を記述することができます。行数に制限はありません。各行には、入力ファイルやオプションパラメータなどを、コマンドラインに記述するのと同様の形式で記述します。このとき、実行モジュール名 (XXXTOEMF) は記述しません。通常は次のような形式になります。

```
入力ファイル -O 出力ファイル [オプションパラメータ]
```

- 入力ファイルと出力ファイルの指定では、ワイルドカード(「\*」など)を使うことができます。入力ファイル名でワイルドカードを使うと、それに該当するファイルすべてについて、それぞれ処理が行われます。出力ファイル名にワイルドカードを使うと、対応する入力ファイルの拡張子を変更したものが出力ファイル名となります。(したがって出力ファイル名には、必ず拡張子を指定する必要があります。)
- 通常は、バッチ処理の途中でエラーが発生しても処理を続行しますが、次の行をバッチファイルの先頭部分に記述しておくと、エラーが発生した時点でバッチ処理が中断されるようになります。

```
$break
```

- 先頭が「#」の行はコメント行とみなされ、無視されます。

### ＜バッチファイルの例＞

- ディレクトリ DIR\_A の中の拡張子 .data のファイルをすべて、ディレクトリ DIR\_B の中の拡張子 .dt のファイルに変換します。

```
dir_a/*.data -Odir_b/*.dt (UNIX 系)
```

あるいは

```
dir_a%*.data -Odir_b%*.dt (Windows 系)
```

※パスの指定方法が UNIX 版(/)と Windows 版(¥)と異なりますのでご注意ください。

- (2) 拡張子 `.data` のファイルをすべて連結して1つのマルチページファイル `test.dt` に変換します。(注:この処理は、マルチページ出力可能なフォーマットのみ有効。)

```
*.data -Otest.dt -M
```

- (3) (2)と同様ですが、途中でエラーが発生したら処理を中断します。

```
$break  
*.data -Otest.dt -M
```

#### <制限事項>

- バッチファイル内で指定できるファイル名(ディレクトリを含む)は最大 255 文字までです。
- スペースを含むファイル名を指定することはできません。
- 入力ファイル名にワイルドカードを指定した場合、処理されるファイルの順番はアルファベット順になります。
- 出力ファイル名には、必ず拡張子を指定して下さい。
- バッチファイルの中に `-BATCH` オプションを記述することはできません。

#### <バッチファイル作成上の注意>

- バッチファイルはテキスト形式で作成して下さい。  
(例: `Microsoft Word` で作成する場合は『テキスト改行』でファイルを保存して下さい。)
- バッチファイル内の項目は半角英数字で作成して下さい。

# サンプル

例 1 : シングルページのラスターデータを任意のファイル名に変換

コマンドライン

```
C:¥>RSTOEMF sample.tif -0kekka.emf
```

属性ファイル設定(注意する項目のみ記述します)

```
# ----- 0:出力ファイル(フォルダ)を個別指定 1:同じファイル(フォルダ)で指定  
SAME_ONAME=0  
# ----- 0:FILE 指定 1:FOLDER 指定  
FILE_FOLDER=0  
# ----- 拡張子  
EXP=tif
```

結果

```
kekka.emf
```

例 2 : マルチページ(2 ページ)のラスターデータを任意のファイル名に変換

コマンドライン

```
C:¥>RSTOEMF sample.tif -0kekka.emf
```

属性ファイル設定(注意する項目のみ記述します)

```
# ----- 0:出力ファイル(フォルダ)を個別指定 1:同じファイル(フォルダ)で指定  
SAME_ONAME=0  
# ----- 0:FILE 指定 1:FOLDER 指定  
FILE_FOLDER=0  
# ----- ページ番号桁数  
COL=2  
# ----- ページ番号開始値  
START=1  
# ----- ページ番号増加値  
ADD=1  
# ----- 拡張子  
EXP=tif
```

結果

```
kekka_01.emf  
kekka_02.emf
```

例 3 : マルチページ(2 ページ)のラスターデータを入力ファイルと同じファイル名に変換

コマンドライン

```
C:¥>RSTOEMF sample.tif
```

属性ファイル設定(注意する項目のみ記述します)

```
# ----- 0:出力ファイル(フォルダ)を個別指定 1:同じファイル(フォルダ)で指定  
SAME_ONAME=1  
# ----- 0:FILE 指定 1:FOLDER 指定  
FILE_FOLDER=0  
# ----- ページ番号桁数  
COL=2  
# ----- ページ番号開始値  
START=1  
# ----- ページ番号増加値  
ADD=1  
# ----- 拡張子  
EXP=tif
```

結果

```
sample_01.emf  
sample_02.emf
```

例 4 : シングルページのラスターデータ 2 件を任意のファイル名に変換

コマンドライン

```
C:¥>RSTOEMF sample1.tif -0sample1.emf sample2.tif -0sample2.emf
```

属性ファイル設定(注意する項目のみ記述します)

```
# ----- 0:出力ファイル(フォルダ)を個別指定 1:同じファイル(フォルダ)で指定  
SAME_ONAME=0  
# ----- 0:FILE 指定 1:FOLDER 指定  
FILE_FOLDER=0  
# ----- 拡張子  
EXP=tif
```

例 5 : 任意フォルダ内の変換対象ファイルを任意フォルダへ変換

コマンドライン

```
C:¥>RSTOEMF in -0out
```

属性ファイル設定(注意する項目のみ記述します)

```
# ----- 0:出力ファイル(フォルダ)を個別指定 1:同じファイル(フォルダ)で指定  
SAME_ONAME=0  
# ----- 0:FILE 指定 1:FOLDER 指定  
FILE_FOLDER=1  
# ----- 拡張子  
EXP=tif
```

in フォルダ内の拡張子(tif)を全て検索し、out フォルダに入力ファイルと同じファイル名で変換します。

入力フォルダ

```
C:¥in¥sample.tif  
C:¥in¥test.bmp
```

出力フォルダ

```
C:¥out¥sample.emf
```

例 6 : 任意フォルダ内の変換対象ファイルを同一フォルダへ変換

コマンドライン

属性ファイル設定(注意する項目のみ記述します)

```
# ----- 0:出力ファイル(フォルダ)を個別指定 1:同じファイル(フォルダ)で指定  
SAME_ONAME=1  
# ----- 0:FILE 指定 1:FOLDER 指定  
FILE_FOLDER=1  
# ----- 拡張子  
EXP=tif
```

in フォルダ内の拡張子(tif)を全て検索し、out フォルダに入力ファイルと同じファイル名で変換します。

入力フォルダ

```
C:¥in¥sample.tif  
C:¥in¥test.bmp
```

出力フォルダ(入力フォルダと同一)

```
C:¥in¥sample.emf
```